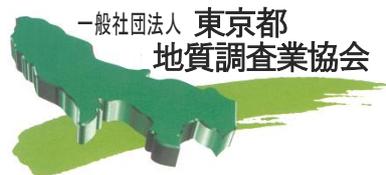


東地協ニュース 2018.12 第35号



技術委員長を終えて

(一社) 東京都地質調査業協会
技術顧問 西原 聡

平成30年5月8日に開催されました第34回通常総会において9年間続けさせて頂いた理事技術委員長を退任致し、現在は技術委員会の顧問としてお手伝いをさせて頂いております。この間何とかやってこられたのも、会長・副会長・外部理事の先生方をはじめ役員の方々、技術委員会の委員の方々、事務局の方々の多大なお力添えの賜物であり、大変感謝しております。

思えば平成14年(2002)に初めて技術委員(技術ノート制作部会)の一員に加わらせて頂き、最初の7年間は「技術ノート」の作成に携わりました。技術ノートの取材のため「上野」、「浅草」、「六本木」、「国分寺崖線」等々都内各所をカメラ持参で歩き回りました。この取材がその後の自分の中に「東京の地形と地名」、「東京の湧水」など「東京感」を持てるようになり、大きな財産となっていると思っています。

その後、平成21年(2009)に前大竹委員長の退職に伴い技術委員長をやらせて頂くことになりました。結局、技術委員・副委員長・技術委員長・顧問を含め協会委員を16年やらせて頂いております(継続中)。

この当時の社会情勢は、リーマンショック、民主党への政権交代等があり、公共事業予算は右肩下がりで、各社とも仕事の確保に大変苦慮している時代でした。東京都地質調査業協会も社団法人化10年を経過したものの、会員の減少に歯止めがかからず、何か新しい仕組みの構築や新しい企画が急務となっていました。

さらに、平成23年(2011)に発生した「東日本大震災」では、津波により過去に類を見ない未曾有の災害となり、原子力発電所にも大きな被害をもたらしました。

この当時、東京都と協会とは「防災展」や「防災講演会」等の接点があったものの、建設局との関係は殆どありませんでした。東日本大震災以降、自民政権に代わり、国や自治体では「国土強靱化計画」が推進され、地質調査の重要性が注目されてきていました。

当協会でも東京都(総務局、建設局、港湾局)と平成25年(2013)6月に防災協定を締結し、災害発生時の復旧対応や災害を防止するための調査等について積極的な意見交換を行う場が提供されました。

平成28年(2016)からは東京都建設局との意見交換会が年一回定期的に行われるようになり、今年度からは東京都財務局との意見交換会も実施されるようになりました。

また、今年度行われた都市整備局職員の皆様への技術講習会も、半日に渡る盛りだくさんの内容にもかかわらず多くの参加を頂きました。

この10年はまさに協会と東京都との関係が非常に強くなったと感じています。これはひとえに会長をはじめ関係各位の地道な努力の成果と思っています。

今後は、さらに東京都との関係を強くすると共に、地質調査の地位向上のために、制度の改善を要求し、協会員が潤うことにより、会員の増強を図っていくことが重要と考えます。

これからも、微力ではありますが協会活動に対して多少でもお力になれるよう頑張っていきたいと思っています。引き続き宜しくお願い致します。

● 会議報告等

○ 理事会

1. 平成30年度 第4回

日時：平成30年7月19日（木）

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 平成30年度東京都地質調査業協会の運営体制
- (3) 社団法人化20年記念行事について
- (4) 平成31年度東京都予算要望ヒアリング（立憲民主党）
- (5) 第2回「災害対策セミナーin東京」について（8月2日）
- (6) 総務広報委員会関係
 - 1) 第1回委員会報告（6月8日）
- (7) 技術委員会関係
 - 1) 平成30年度東京都・中央区・港区
合同総合防災訓練（9月2日）
 - 2) 平成30年度防災展（仮称）（10月13日・14日）
 - 3) 建通新聞社
「連載企画 ジオ東京物語（ストーリー）」の執筆依頼
 - 4) 東京都からの地盤調査に関する
研修講師派遣依頼について（8月22日）
- (8) 正味財産（収支）報告（平成30年6月）
- (9) 定期総会新聞記事（日刊建設工業新聞5/14版）
- (10) 全地連E-mailかわら版 7月号
- (11) ボーリングマシン秋期安全衛生特別教育講習会
（10月5日・6日）

2. 平成30年度 第5回

日時：平成30年9月14日（金）

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 一般社団法人化20年記念行事について
- (3) 平成31年度東京都予算要望ヒアリング
 - ・都民ファーストの会（8月6日）
 - ・自由民主党（8月21日）
 - ・立憲民主党（9月4日）
- (4) 東京都建設局との意見交換会について（11月19日）
- (5) 東京都財務局との「入札参加資格要件」に関する
事前打合せについて（8月6日）
- (6) 第2回「災害対策セミナーin東京」について
- (7) ボーリングマシン安全衛生特別教育講習会について
- (8) 総務広報委員会関係
 - 1) 第2回委員会報告（7月23日）

- 2) 出先機関との意見交換会について
- (9) 技術委員会関係
 - 1) 平成30年度東京都・中央区・港区合同総合防災訓練
 - 2) 平成30年度防災展（仮称）
 - 3) 建通新聞社
「連載企画 ジオ東京物語（ストーリー）」の執筆依頼
 - 4) 東京都からの地盤調査に関する
研修講師派遣依頼について
- (10) 正味財産（収支）報告（平成30年8月）
- (11) 平成29年度日本地震工学会論文賞の受賞 若松理事
- (12) 全地連E-mailかわら版 8月号
- (13) 「チバニアン」の捏造・改ざんについて
- (14) 全国標準積算資料（赤本）全面改訂について
- (15) 協会ホームページのリニューアル完了

3. 平成30年度 第6回

日時：平成30年11月6日（火）

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 第35回定時総会および社団法人化20年記念行事
について（平成31年5月9日）
- (3) 東京都建設局との意見交換会について
- (4) 東京都財務局との意見交換会について（11月26日）
- (5) 都市整備局「建築構造の実務（地盤調査の実務）」
研修実施結果
- (6) ボーリングマシン安全衛生特別教育講習会について
（参加者47名）
- (7) 総務広報委員会関係
 - 1) 第3回・第4回委員会報告（9月25日・11月2日）
 - 2) 第3回委員会NP部会報告（10月2日）
- (8) 技術委員会関係
 - 1) 平成30年度東京都・中央区・港区合同総合防災訓練
 - 2) 平成30年度防災展
- (9) 正味財産（収支）報告（平成30年10月）
- (10) 全地連E-mailかわら版 10月号

4. 次回理事会開催予定

日時：平成31年2月6日（水） 予定



☆ トピックス (協会行事紹介)

◎第10回 土壌環境を取り巻く最近の話題と 分析機関見学(7月13日)

環境部会では、7月13日(金)に『土壌環境を取り巻く最近の話題と分析機関見学』と題し、株式会社環境管理センター技術センター(八王子市)において分析機関見学会を開催しました。

本見学会は、土壌汚染調査や地下水調査に携わる地質調査技術者を対象に、普段の業務において接する機会の少ない分析業務の実務について、正しい技術や知識の習得を目的として定期的で開催しており、好評につき今回で10回目となります。見学会は「講習」と「見学」の二部構成となっており、土壌・水質の分析に関する手法や原理などの基礎知識、分析用試料の採取・保管や分析結果の整理といった実務上欠かせない知識について講習を行いました。また、トピックスとして平成31年4月に改正される土壌汚染対策法の内容についての話題も盛り込んだ多岐にわたる内容となりました。

分析実務の見学では、実際の作業風景を見ながら、高いレベルでの品質管理や精度管理を実感することができ、分析試料を採取する立場と分析結果を評価する立場の二つの視点から、普段の業務へフィードバックするきっかけになったと感じています。

参加頂いた方々(総勢20名)からは、「分析実務を体験したい」などの要望も寄せられ、今後このような声を鋭意反映させてより良いものにしていきたいと考えています。

最後に、株式会社環境管理センターの皆様には、業務ご多忙の中、講習会の資料作成から丁寧でわかりやすい説明、分析施設の案内まで大変お世話になりました。ここに厚く御礼を申し上げます。



(技術副委員長 西村修一)

◎ 第2回「災害対策セミナー in 東京」 (8月2日 会場：新宿区立角筈ホール)

東京都地質調査業協会、建設コンサルタンツ協会関東支部及び東京都測量設計業協会(以下、3団体)の共催による災害対策セミナーが、8月2日、新宿区立角筈ホールにて開催されました。このセミナーは、東京都と3団体の間で災害協定が締結されたことを契機に、首都東京における大規模災害の発生に備え、防災・減災のための事前の協会活動の取組みについて考える機会として企画され、今回で2回目の開催となります。

はじめに、東京都総務局総合防災部長の有金浩一氏よりご挨拶を頂戴し、基調講演では、(一財)日本気象協会の関田佳弘氏(気象予報士)を講師にお招きし、関東地方における近年の豪雨災害について貴重なご講演をいただきました。その他、東京都総務局、建設局及び港湾局の幹部の方より東京都における災害時の取組みについてご説明いただきました。

3団体からは、災害対策に関する各協会の活動状況や取組みについて紹介されました。

当協会からは、西原技術顧問より地質協会の立場から提案する災害対策として「東京都における災害時の地質リスク」について講演いただきました。

地質リスクとは、「地盤・地質の様々な不確実性に起因して生じる不都合な事象」のことを総称しています。地質リスクは、正確な地盤情報があれば事前の対応策を適切に把握することで、減災につなげられるものと考えられています。

講演では、まず東京の地形・地質の変遷について地形分類図や地層断面図等を示しながら丁寧な説明があり、続いて東京都内に潜む地質リスクの具体例が紹介されました。

改めて、地質情報の重要性が認識され減災対策を進める一助となることを願っております。

当日はお忙しい中、多数の各協会会員の方々にご参加いただきました。引き続き、災害協定活動への対応にご理解ご協力を賜りたくお願い申し上げます。



(協会事務局)

◎ 平成 30 年度 都市整備局技術講習会

(平成 30 年 8 月 22 日)

この講習会は、東京都都市整備局様の依頼により地質調査の実務に関する講習会として開催されたもので、当協会においては、地質調査をアピールできる絶好の場となった。

講習会は、設計等を行う東京都職員を対象に 50 名程度の出席者に向けて、都庁内の一室で行われた。講習の内容は以下のとおりである。

	内 容	講 師
①	東京都地質調査業協会 挨拶	会長 網代 稔
②	1. 東京都における地形・地質と地質リスク 2. 地盤調査計画の立て方	技術顧問 西原 聡
③	3. 地盤調査の基礎知識・調査の方法	技術委員 川田 英則
④	4. 調査報告書の活用	技術副委員長 長谷川 理
⑤	5. 計算演習	技術委員長 川井 康右

①では、地質調査業協会の現状を伝え、地質調査が如何に必要であるかをアピール。

②では、東京都の独特な地形・地質について説明、それらが持つ地質リスクについて解説、そして、それを基にした地盤調査の計画の立て方を色々なケースで説明。

③では、前述で挙げられた地質リスクを解決するために何が必要なのか、多くの調査方法を分かりやすく説明。

④では、実際の報告書を例題に、調査報告書のポイントを伝えるとともに、我々が何を伝えなかったのかを解説。

⑤では、地質調査により得られた地盤定数を用いて、山留め、支持力、地震時の液状化、圧密沈下等の計算演習を実際に計算しながら説明。

出席者の多くは若手技術者で今後のご活躍が期待されるが、その中でも女性技術者も多く散見され、この業界のイメージも少しずつ変わってきていると感じた。

当協会では、このような単独での講習会の開催は久しぶりの事であった。協会活動を広める良い機会であると共に、地質調査への理解を深めて頂ける場として、今後も積極的に開催していきたいと考えている。



(技術副委員長 長谷川 理)

◎ 平成 30 年度 東京都・中央区・港区合同総合防災訓練
(9 月 2 日 於: レインボー公園)

今年の防災訓練は東京都・中央区・港区合同で、9 月 2 日に港区と中央区の会場に分かれて行われました。訓練は、自助・共助に基づく地域防災力の向上を念頭に住民参加型の大規模なものでした。当協会は港区のレインボー公園で行われた防災訓練に参加しました。

今回の防災訓練は、近い将来起こると想定されている首都直下型地震 (M7.3) が、帰宅ラッシュ時と重なる 18:00、北の風 風速 8m の悪条件のもとに発生したと想定したものでした。防災訓練は、東京都・港区・警視庁・東京消防庁・自衛隊およびライフラインの防災機関が中心となり実地体験重視で実施されました。

訓練の主な内容は、地域住民の避難場所への避難訓練、地域住民と地元消防団との連携による初期消火活動、救助・救護活動を実際に体験する体験型訓練、陸上交通のマヒを想定し、船舶等水上交通機関を利用した物資搬送・医師搬送・救出等の各種訓練の実施、災害時必要となる備蓄品の展示や耐震対策等についての紹介、炊き出し訓練、緊急車両の展示等が行われました。

当協会も、一般参加者を対象に、震災時における『自助・共助』の理念に基づいた防災意識のさらなる向上を目指し、過去の地震・水害・液状化などの被害状況パネルの展示、液状化実験装置による液状化現象の模擬的な実験、土地条件図を利用したパソコンでの地盤検索を行いました。

当日は、朝からあいにくの雨模様でしたが、来場された方は皆熱心に見学されていたことが印象的でした。

特に、液状化実験装置には家族連れが訪れ、子供たちが興味深く液状化現象を観察していました。時々歓声が上がリ、疑問を投げかけるなど、子供達にとって震災時によく聞く『液状化』という言葉の意味を、模擬的ですが直接体験できたことは、子供達が防災に興味を持つ良い契機になったのではないかと思います。

また、パソコンによる地盤検索では、参加された方の住む地域の地形や地質を検索し、震災時に想定される地質リスクについて説明しました。参加者からは、地震時の揺れや液状化に関する質問が多く、近年多発している巨大地震での家屋の倒壊や液状化被害への関心の高さが感じとれました。

今回の住民参加型の防災訓練により、参加された方々は体験した経験をもとに、災害に対する知識を蓄積・活用し、防災意識のさらなる向上につなげていくことができるものと確信しています。

当協会でも、参加された方々の防災意識の向上の一旦を担うことができたことに誇りを感じています。今回の防災訓練を契機に、参加された方が地質調査に関心を持って頂き、地質調査業界全体の発展に繋がることを切に望みます。



液状化実験



地盤検索

(技術委員 川田英則)

◎ 平成30年度ボーリングマシン安全衛生特別教育講習会 (秋期・10月5日～10月9日)

この講習会は当協会の地質調査技術の向上に関する事業の一環として、東邦地下工機株式会社様(東京都品川区)にご協力頂き、毎年春・秋の2回実施している。

受講者は協会会員にとどまらず、さく井、土壌環境など多方面からニーズがあるが、今回は定員を若干下回る47名での実施となった。一方、北海道、福井、九州からの参加者があり、さらに学生が1名、外国籍の方が3名参加された。

講義内容は、1日目に学科講習、2日目に実技講習に分かれ、講師は当協会片山浩明理事ほか、実技では東邦地下工機(株)の職員の方数名によって行われ、学科・実技ともに普段の作業に活かされる内容であった。

学科講義は、ボーリングマシンに関する知識(基礎知識・構造、運転及び点検・整備)、マシンの運転に必要な一般事項に関する知識(施工・力学と電気)および関係法令・災害事例等である。関連法規など特別教育の沿革やマシン運転・作業の中にもどのような危険性をはらんでいるのか、繰り返し細やかな講義が続いた。

翌日の実技講習では、ボーリングマシンを3台使い、エンジンの始動時、ロッドの上げ下ろしなどマシン操作時に潜む危険性等について実践的な講義が行われた。今回は学生の参加もあり、マシンを扱うことが初めての者に対して、講師の方々の指導・助言で適切な操作を学んでいた。また、危険な場面には講師が容赦なく檄を飛ばし、安全作業の重要性を再確認させていた。

実技講習終了後、2日間受講した全員に修了書の授与が行われ、講習は無事終了した。現場作業での安全・安心を確保するために多くの知識を習得できる場として、今後も継続して開催していきたいと考えている。



(技術委員 岡 信太郎)

◎ 東京都防災展 2018

～ はじめよう ひとりひとりのそなえ ～

(平成 30 年 10 月 13 日～10 月 14 日)

東京都防災展 2018 が、有明の東京臨海広域防災公園（そなエリア）にて平成 30 年 10 月 13 日（土）～10 月 14 日（日）の 2 日間にわたり開催されました。

この防災展は、都民に自助、共助への理解を深め、首都直下地震等をはじめとした災害への備えを推進することを目的として東京都主催で毎年実施されております。当協会は、関東地質調査業協会と合同で『宅地の診断』という名のブースを設けて、地震災害のパネル展示や技術ノートなどの小冊子を配布したほか、一般来場者等を対象に以下のイベントを開催しました。



(1) 地盤検索コーナー

Google Earth に土地条件図を重ねたソフトを用いて、参加者が希望する場所の地盤検索を行い、技術委員が検索地の地盤についてわかりやすく説明しました。また、Google Earth に地盤のゆれやすさマップを重ね合わせて検索地の“ゆれやすさ”についての説明を加え、理解を深めて頂きました。

参加者は、非常に熱心に聴いており、かなり多くの質問もありました。今年は 2 日間で 100 名近くの方に利用して頂きました。



地盤検索（宅地の診断）

(2) 液状化実験装置を用いた液状化の実演

液状化実験装置を使って、液状化の実演をしました。この実験は、杭基礎、ベタ基礎、布基礎と異なる構造を有する建物の模型、マンホール、車などの模型を用いて、液状化現象とそれに伴う被害状況が可視化でき、非常に理解しやすいものです。

参加者は、感じた疑問を我々に投げかけるなどして興味深く実験を見守っておりました。また、家族連れの参加者も多く、子供たちは時に歓声を上げ、積極的に参加していました。



液状化実験装置の実演

(技術委員 近藤 龍児)

◎ 清掃工場・埋立処分場見学と地盤環境研修会

環境部会

日 時：平成 30 年 11 月 14 日（水）

開催場所：清掃工場・埋立処分場

(港清掃工場、中央防波堤埋立処分場)

平成 30 年 11 月 14 日に東京湾岸の港清掃工場及び中央防波堤埋立処分場を見学する『埋立処分場見学と地盤環境研修会』を開催しました。

清掃工場や埋立処分場は、我々の生活から排出される廃棄物を適正な処理を行うという重要な役割を担い、このような取り組みにより我々の快適な生活が成り立っています。しかしながら東京 23 区の最終処分場の処理余年数は 50 年程度と推測されています。

このような状況から、中間処理時の廃棄物の一層の減量化や、循環型社会形成に寄与するために我々排出者は 3R の実践によるごみ排出量の減量化が必要不可欠となっています。

今回の研修では、港清掃工場及び粗大ごみや不燃ごみの中間処理施設、さらには中央防波堤外側埋立処分場を見学しました。

前者では家庭などから排出されるごみの中間処理方法について、後者では中間処理工程にて減量化されたごみの最終埋立処分場の状況について施設を見学しながら詳しく解説いただきました。

12名の参加者からは、「普段、目にする事の出来ない施設を見学することが出来て大変参考になった。」などの意見をいただきました。

港清掃工場では、一般ごみの処理を行う過程で発生する熱エネルギーからボイラー発電を行い エネルギーの有効利用を行っていることなど、ごみ処理以外においても環境に関する取り組みについて理解を深める良い機会となりました。

今回見学した中央防波堤埋立処分場の位置する東京湾岸は首都圏の生活と産業を支える重要な役割を担っています。2020年の東京オリンピック開催を契機に、多くの方が親しめる憩いの場、交流の場、あるいは新しい都市づくりの場として、埠頭の再開発や広大な埋立地の開発が日々行われています。

地質調査業に携わる我々は東京湾岸エリアで様々なプロジェクトに参加しており、今後も業務で関わる機会が予想されます。これまでの知見とともに、さらに幅広い知識が要求されることは想像に難くありません。今回の講習会が、参加いただいた皆様の今後にも役立てられれば嬉しく思います。

最後に、公益財団法人 東京都環境公社様には、見学会参加で大変お世話になりました。また、訪問先の港清掃工場様からは専門的な説明を頂きました。

ここに厚く御礼を申し上げます。



公益財団法人東京都環境公社様による最終処分場の解説



東京 23 区最後の埋立処分場「新海面処分場」を中央防波堤処分場見晴らし広場より望む

(技術委員 橋本佳明)



○総務・広報委員会の活動について

当協会の運営組織としましては、①総務委員会、②広報委員会、③技術委員会の3つの委員会に分かれて活動しております。

このうち、今年度からより広範囲で充実した活動内容を目指して総務委員会と広報委員会の運用を合体し、「総務・広報委員会」として積極的な委員会活動を展開する運びとなりました。

総務・広報委員会は亀井委員長を含めて16名で構成され、2つの部会に分かれて活動しています。

1つは「NP部会」と称し7名が所属しており、主な活動内容は東地協ニュースの発行とパンフレットの作成です。

もう1つは「MO部会」と称し8名が所属しており、主な活動内容は市場調査及び東京都との意見交換会における資料の作成や調整です。

以上が総務・広報委員会の簡単な活動内容ですが、今後とも会員の皆様にお役に立てるよう努力する所存です。

▲ 行事日程

日程	行事名・内容等
1月16日	(関東・全地連) 新年賀詞交歓会
(来春)	(東京) H31 年度 ボーリング講習会(春)
5月9日	(東京) 第35 回定時総会
5月16日	(関東) 第5 回定時総会
6月28日	(全地連) 道路防災点検講習会

■ 会員(正会員・賛助会員) 動静

(1) 住所変更

- ・(株)アドメディア

[新住所]

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-5-3
 児谷ビル 5階

住所、代表者、会社名等の変更がございましたら、
 お手数ですが協会事務局までご連絡をお願い致します。

(協会事務局 TEL 03-3252-2963)

お店紹介

昔から愛される名店、台湾料理 麗郷 渋谷店を紹介します。
 渋谷駅から道玄坂を上り、〇〇案内所を右折してすぐのレンガ造りの立派な建物です。

特に有名なのはチョウズメとシジミですが、他のメニューもとても美味でリーズナブルです。

店内はにぎやかですが、デートにもお勧めです。

渋谷でお店を決めるのに困った時は、高い確率でここに行きます。

一緒に行った方々には星三つを頂いています。

ちなみに食べログポイントも3.61と高く、店員さんの塩対応もくせになります。

渋谷に行った際は、スクランブル交差点のあとにでも是非。

店名：麗郷 渋谷店
 住所：渋谷区道玄坂2-25-18
 電話：03-3461-4220
 営業：『月～金』

12：00～14：00 17：00～24：00

『土・日・祝日』

12：00～24：00



・ 編集後記 ・

平成30年も残すところ僅かとなり、慣れ親しんだ「平成」の元号も来年5月には新元号となります。

昭和から平成そして新元号へと時代の変遷を感じるとともに、世間では新元号が何になるのか、盛り上がりつつあります。

さて、東地協においては今年度より新体制がスタートし、広報においても協会のパンフレットを大きく刷新しました。協会の活動内容がとても分かりやすくなっていますので、業界内をはじめ、その他関係者の方々にも興味を持っていただけたと思います。今後の協会活動にもお役に立てられるものと期待しています。

私事ですが、本年度より新人委員として委員会に参加させて頂いております。当協会の活動がとても活発な印象を受けるとともに、活動範囲が広いことに驚きました。

これから皆様と協会での活動を通じて、地質調査業協会の益々の発展と地位向上にお役に立てればと思っておりますので、何卒宜しくお願い致します。

最後になりましたが、皆様方の新しい年のご多幸をお祈りいたします。

どうぞ良いお年をお迎えください。

(I.Y)



東地協ニュース 2018.12 第35号

発行・編集 一般社団法人東京都地質調査業協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-8 (内神田クレストビル)

TEL 03-3252-2963 FAX 03-3252-2971

<http://www.tokyo-geo.or.jp/> E-Mail info@tokyo-geo.or.jp